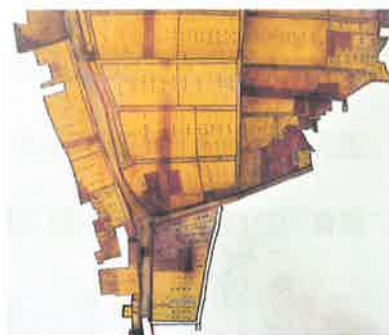


平成 31(令和元)年度 平野屋新田会所 市民サポーター会議 活動報告書



令和 2 年 3 月 31 日
平野屋新田会所市民サポーター会議

はじめに

令和へ改元される年の 2019(平成 31)年 2 月、大東市文化財保護審議会で深野池新田開発関連文化財群の「平野屋新田会所千石蔵跡・道具蔵跡・船着場跡」が大東市指定史跡として答申され、3 月の市教育委員会で承認されました。

2008 年に平野屋新田会所屋敷が解体され、2010 年に大東市がその一部を取得してから 9 年後、ようやく市の「単なる保有地」から「市の文化財」として位置づけられることになりました。市は、史跡指定を記念して 8 月に平野屋新田会所跡と市史跡を市内外に周知する記念講演会を開催しました。これからは、保存と活用に向けて動き出すことと思われます。

一方、わたしたち平野屋新田会所市民サポーター会議は、会所跡周辺遺産や水路の調査を行い、平野屋新田会所跡だけでなく周辺の新田遺産や新田の治水・利水を探り、深野池に開発された新田の歴史的価値と魅力を発信してきました。平成 31(令和元)年度は、これまで続けてきた会所跡の草刈り作業や調査活動、大阪府内の四会所交流事業を続けながら、大東市立歴史民俗資料館や大阪産業大学の松本裕先生、市史編纂委員の岡村喜史先生のご協力ご教授を得て、歴史民俗資料館と西部図書館でのパネル展示と見学会、講演会を行うことができました。

市史跡指定をむかえた今、五年間を経たサポーター会議の活動は、教育委員会生涯学習課によるサポーター組織設立呼びかけ「江戸時代の代表的な文化遺産である平野屋新田会所跡の整備を機に、その魅力を発掘し、市の内外にアピールする方法について、あなたのアイデアと意欲を試してみませんか」に立ち返り深化させる節目を迎えているようです。

令和 2 年 3 月吉日

平野屋新田会所市民サポーター会議一同

I 平成 31(令和元)年度活動報告

《 1 》活動日誌

4 月 13 日(土)	平成 31 年度第 1 回定例会
4 月 17 日(水)	提案型委託事業のプレゼンテーション
4 月 22 日(月)	会所跡草刈り作業
4 月 29 日(月)	四会所交流事業（鴻池新田会所）
5 月 9 日(木)	生涯学習課平岡課長と三役が懇談
5 月 11 日(土)	総会・第 2 回定例会
6 月 2 日(日)	「だいとうクリーンウォーク&環境フェア 2019」展示参加
6 月 4 日(火)	会所跡草刈り作業
6 月 8 日(土)	第 3 回定例会
6 月 21 日(金)	四会所交流事業（加賀屋新田会所）
7 月 13 日(土)	第 4 回定例会
7 月 21 日(日)	来ぶらり南郷での展示会（27 日まで）
7 月 30 日(火)	会所跡草刈り
8 月 10 日(土)	第 5 回定例会・市史跡指定記念講演会スタッフ活動
8 月 20 日(火)	四会所交流事業（大東）
9 月 14 日(土)	第 6 回定例会
10 月 4 日(金)	会所跡草刈り作業
10 月 7 日(月)	教育委員会草刈り作業手伝い
10 月 12 日(土)	第 7 回定例会
10 月 29 日(火)	四会所交流事業（安中新田会所）
11 月 7 日(木)	歴史民俗資料館展示会準備・第 8 回定例会
11 月 8 日(金)	歴史民俗資料館展示会準備
11 月 9 日(土)	歴史民俗資料館展示会（11 月 24 日まで）
11 月 24 日(日)	現地見学会(歴史民俗資料館～平野屋新田会所跡)
12 月 3 日(火)	四会所交流事業（鴻池新田会所）
12 月 14 日(土)	第 9 回定例会
12 月 26 日(木)	来ぶらり南郷での展示会（1 月 27 日まで）
1 月 11 日(土)	第 10 回定例会
1 月 13 日(月)	展示会講演会（「まなび南郷」での展示会・多目的室での講演会）
2 月 18 日(火)	四会所交流事業（加賀屋新田会所）
2 月 22 日(土)	第 11 回定例会
3 月 14 日(土)	第 12 回定例会

《2》各部会等の活動

1 展示・広報活動

①「だいとうクリーンウォーク&環境フェア 2019」に出展

- ・会場:東諸福公園
- ・期日:令和元年 6月 2日(日)
- ・概要:今回は、会所跡が大東市の史跡に指定されたので、「千石蔵跡・道具蔵跡・船着場跡史跡」と保存地にある「又の刻印石、柱の基礎石、踏臼(唐臼)の支点石、残念石、高松家歌碑」などの紹介を中心にしたパネル展示で参加した。
そのなかで、大阪産業大学松本裕先生研究室の協力で作成した水路地図に関心を示す方々が多かった。昔の地図上の水路や土地の様子と現在を見比べながら「昔はこうだった、ああだった」など話しあう姿が見られた。



見学者に説明する会員



パネルに見入る見学者

② 来ぶらり南郷 1 階ホールでの展示

- ・会場:来ぶらり南郷 1 階エントランスギャラリー
- ・期日:令和元年 7月 21~27 日
- ・概要:市史跡指定を記念して市の西部での展示を計画し、来ぶらり南郷の西部図書館の協力で、パネル展示を行った。



展示の全景

③ 「飯盛城と深野池」で大東・三好長慶会とコラボ 来ぶらり南郷 1 階ホールでの展示と講演会・ビデオ上映会

平成30年 3 月、三好長慶武者行列会場(いいもりグラウンド)にて展示協力をした。それが縁で今年度は、大東・三好長慶会と来ぶらり南郷の 1 階ホールで「その時、大東の歴史が動いた」をテーマに共同展示と講演会を行うことになった。準備段階でサポーター会議の体制と時間の調整がうまくいかず西部図書館のご協力をいただいで実施することができた。

1 月 11 日から展示。13日は、講演会が行われ、サポーター会議の活動と新田開発や平野屋新田会所の歴史や魅力をメンバーの藤井さんが紹介した。同時にサポーター会議が作成したビデオ「平野屋新田会所へのおさそい」(6 分 7 秒)を上映した。

引き続き、サポーター会議は展示物を入れ替えて単独で 2 月 27 日まで展示を行った。

これら西部図書館での展示・講演・ビデオ上映の活動により、西部地区に平野屋新田会所跡と市民サポーター会議活動を知ってもらう機会を得ることができた。



紹介チラシ (写真左) と平野屋新田会所の紹介展示の様子



(左)展示会場・大東・三好長慶会関係展示
(上) 講演の様子

④ 広報紙発行

「平野屋新田会所市民サポーター会議」が発足して3年目に発行が始まった広報紙「ひらのや新田会所かわら版」の 4 号を発行した。

今回の 4 号は、大東市の 30 年度提案型公募委託事業として取り組んだ学習講座・現地見学会やシンポジウムなどの特集記事となった。見学会やシンポジウムでご協力いただいた谷川地区の野村誠さんと中垣内地区の大岸清さんからご寄稿頂いた。(資料《1》に再録)

2 魅力発信活動・会所跡地案内板の設置

元・大工さんが材料を調達して製作し2か所に設置して下さった。感謝のみです。引き続き、提案公募で作成したマップに基づき重要な樋門に設置していく予定でしたが、昨年の提案公募は残念な結果となり材料費の購入ができませんでした。



← 錢屋橋側(写真左)と会所跡西側フェンス(右)に設置。
予算の都合で小さめの看板になった。

3 会所跡の草刈作業

会所跡地の環境保全の一つとして毎年 3~4 回の草取り作業をしている。今年度も草の成長が早くなっているため作業に手間取り、サポーター会議だけの作業ではやりきれず、教育委員会生涯教育課の草刈り作業に協力する形でこなすことができた。近年、徐々に雑草の根が多くなり、成長も早まり、草刈りが大変になってきている。



草刈り作業

今年度計画した草刈り日
4月22日(月)
6月4日(火)
6月6日(水) 天候悪く任意で作業
7月30日(火)
7月29日(月)・31日(水)教育委員会作業の手伝い
10月4日(金)
10月7日(月)・8日(火)教育委員会作業の手伝い

会所跡の草刈作業(会員の感想)

●定期的に行ってきた草刈時の飲み物は持参でいいのですが、軍手・スコップ・虫よけなどを用意してほしい。虫刺されで2・3日腫れてしまい「もう行かへん」という人もありました。草拔きは楽しくて、短時間でOKと言われてもついつい気兼ねしてがんばってしまう人も。日程が合わず参加が十分できていない人は、見学会で立ち寄った時にごみを持ち帰るようにしています。

●中国の詩人杜甫が詠んだ漢詩・春望に、「国破れて山河あり・・・」というのがあった。また、「夏草や兵どもの夢の跡」の句は、松尾芭蕉が平泉で詠んだ俳句です。三百年前、大東市の新たな基礎が作られた。草木一本一本に、それが物語っているように思える。

●草抜きしながら、道具蔵や千石蔵の礎石が崩れそうになっていることが気がかりです。ゴロゴロ山積みされた石・石・・・訪れた人々に申し訳なく思います。

●重要な史跡としての魅力を引き出すために今後の整備をどうするのか。草刈りだけでは限界です。私たちサポーターができることは惜しまない！手伝いはなんぼでもする。楽しみながらしていきたいと思います。

4 見学会・ガイド活動

今年度は、11月の展示会関連事業として実施した。

日 時 : 11月24日(日)13時～16時

見学場所 : 平野屋新田会所跡周辺

歴史民俗資料館に集合して展示説明のあと出発した。深野池に作られた新田の東側を通って平野屋新田会所跡に向かった。

受付をはじめ資料配付や説明役など各自それぞれの仕事をこなす事ができた。会所跡では会所の説明のあと㊦の刻字がある石や大坂城築城時の「残念石」と思われる刻印がある石に関心が寄せられていた。

現地で解散したあと、希望者を銭屋川上流部や住道駅まで案内した。



平野屋新田会所跡に残されている刻字された石を見る参加者



展示会場を見学する参加者



会所跡の説明板を見ながら説明を聞く参加者

《3》 四会所交流事業

代表者が集まって四会所持ち回りで2か月ごとに情報交換と交流事業について話し合っている。「旧植田家だより」には四会所だよりが設けられ持ち回りで原稿を書き掲載して頂いている。

平野屋新田会所市民サポーター会議も、平野屋新田会所跡と樋門・水路調査の取り組み及び、2019 年 11 月に開催された「今よみがえる新田遺産物語＝深野池と会所・新田水路」展を紹介した。

また、来年度に向けて四会所共同企画について検討中である。



展示会場入り口に四会所紹介パネルと宣伝チラシを置いた。

《4》 歴史民俗資料館での展示・ビデオ上映

2019年 11月 9日(土)～24日(日)大東市立歴史民俗資料館

今年3月、大東市は「平野屋新田会所千石蔵跡・道具蔵跡・船着場跡」を市の文化財として史跡指定した。その第一歩として、去る 8 月に大東市主催の指定記念講演会「未来につなぐ新田開発の遺産」が開催された。市民サポーター会議も「今よみがえる新田遺産物語＝深野池と会所・新田水路」展を開催した。なお、展示案内としてビデオ「平野屋新田会所へようこそ」(8分 23秒)が上映された。

これから、市民の心を豊かにさせる史跡にできるかが行政と市民に問われることになる。

さらに、加賀屋新田会所跡、鴻池新田会所跡、安中新田会所跡、3新田会所とともに新田開発は何をもたらしたのか。今日的意義を考えていく必要がある。

なお、今回の展示会と見学会は大東市教育委員会と大東市立歴史民俗資料館(指定管理者株式会社アステム)の共催で、大阪産業大学松本裕先生研究室をはじめ多くの方々の協力をいただき開催することができた。

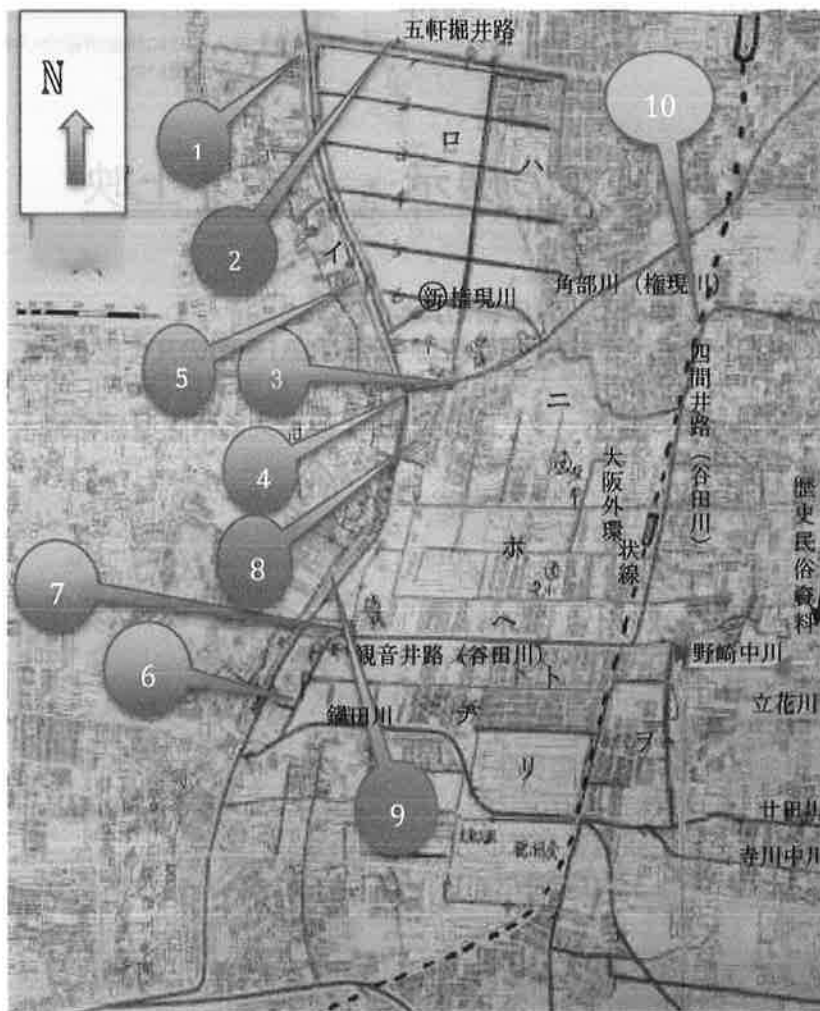


(写真左) 展示の準備・正面の石垣のパネルは千石蔵の基礎部分(実際は約 1.5 倍)
(写真上) 展示会と見学会の案内

《5》水路調査活動

昨年度までは深野池南部の深野南新田と河内屋南新田部分の調査を進めてきた。今年度は、北部地域の水路の調査を行った。その結果を大阪産業大学松本裕先生研究室の協力のもと水路地図にした。調査結果の精査に十分な時間が取れなかったこともあり、水路地図もより練り上げる必要がある。

深野北新田・深野新田の用排水路について



(大阪産業大学デザイン学科松本研究室作成図に加筆)

凡 例		水路敷	P 樋門跡
—	河川	道路	ポンプ場
—	井路 (水路)	埋め立て	
—	暗渠	境界	



① イノ割用水樋跡



ニノ割
深野中学西側の水田



⑨字カワニシ樋門跡



明治 20 年発行図筆割図

深野北新田・深野新田の両用水は、新田開発当初は恩智川に依存していた。江戸中期元文年間の頃より恩智川の川床が高くなったことで用水量が減少する。それ以後は淀川からの用水に依存してきたようである。明治17年大阪府地誌には、両新田の「水利は至って便 旱害稀ナリ」と記載されている。

今回の水路調査は、明治 19 年切図を基に行った。調査の際に行なった地元の聞き取りは、突然の訪問にも関わらず親切なご対応に感謝いたします。深野北新田では都市開発により町の状況は、大きく変わっているが井路跡(水路)からの樋門跡が発見できます。(聞き取り報告は、案内文の後に聞くと表示しました)

① イノ割用水樋

寝屋川から水を引き、河北村(現、寝屋川市河北)と深野北新田(現大東市深野北)の用水となりイノ割では西南に回流し寝屋川に落とす。この調査によりイノ割の境域が新たに判明。

② 五軒井路(現、五軒堀川)

北條村(現、大東市)界より起こり西北に曲折し、現大東市南楠の里町に至り河北村(現、寝屋川市)及び深野北新田界(現、大東市)に入り北條村の悪水は、寝屋川に落とされていました。

③ 伏越樋(深野北新田)

口ノ割の用水・悪水樋は、享保 10 年(1725)既に修復の記録が残る。(文書Ⅲ)

④ 水門

角部川(旧、権現川筋)に架かる本願寺橋(現、角部橋)は河内街道になる。ここに水門の記録が残る。(大阪府地誌)

⑤ 口ノ割用水井路(深野北新田)

現、深北緑地辺りの口ノ割及びハノ割には、東西七条、南北二条の井路(水路)があった(明治 19 年切図)。口ノ割用水樋より寝屋川の水を引き東西南北の井路を巡り悪水樋に至り寝屋川に落とされていました。

南北二条の井路(水路)

・寝屋川左岸に消えた西側一條の井路

昭和 45 年(大阪万国博覧会の年)深北緑地内に越流堤を造成時に、寝屋川西側の道路の一部が拡張された。

拡張(深北橋を西に渡り理髪店から M 宅の前)により寝屋川が東側に移された。

それまでの苗田と井路は寝屋川に消え F 氏宅も東側に屋敷を移築されたと聞く。



寝屋川越流堤

・東側一條の用排水井路

この井路は現、北の深北緑地公園内ロケット広場と野球場との境域にある道路が、かつての井路の跡になる。(地籍地番図より)

尚、新権現川の南に残る中央を奔る井路が、現在も重要な井路として現存している。水流は南③の伏せ越樋を通し二の割りへ入り寝屋川に落とされると聞く。

東西七條の井路 (口の割から八の割)

・北から南に下がる東西 7 本の井路を上から一條〜七條。

・5條井路:緑地公園内の深北大橋・緑地大橋(昭和55年)下辺りが井路跡と思われる。(地籍地番図より)

・6 條井路:新権現川の南沿いの道路(埋立て後)となる。現況は、幅約 20 cmの水路が新たに造られ用水は寝屋川からポンプアップしていると聞く。

・7 條井路:唯一現存する井路の用水は、寝屋川左岸よりポンプアップしている。

昔は水車を使用していたと聞く。

⑥ 悪水井路

深野新田内の西方に流れる観音井路(現、谷田川)の分派は現、深野橋下で西南に斜交い通し寝屋川に落とす。

寝屋川東堤に水門二か所。 谷田川分派の樋門跡

⑦ ヘノ割樋門(用水・悪水樋)

戸前島井立笠石には天保 14 年(1844)銘があったと聞く。⑥の悪水井路の 2 ヶ所の樋門跡も同じころの樋門と聞く。

⑧ 深野北新田の氏神菅原神社(深野新田内の飛地)

深野北新田の開発と氏神は西ノ宮(兵庫県)からの開拓者により開発され旧地名は字西ノ宮。昭和 40 年頃には、バス停西ノ宮があったと聞く。

⑨ 字カワニシ

深野新田の飛地で有る字カワニシは、寝屋川右岸沿いの開拓を川西(兵庫県)からの開拓者に開発されたと聞く。

⑩ 四間井路(現、野崎駅前の谷田川)

深野新田の用水とする。北條村から流れ南の観音井路で合流。



字二ノ割谷田川水門跡



字二ノ割と北條村領域水路

(文責:林田恵子)

《 6 》 シンポジウム報告書作成

平成 30 年度大東市提案公募型委託事業の柱の一つであったシンポジウムの報告を文書記録として残すことになり、シンポジウム開催を担当した「シンポジウムチーム」が報告書をまとめた。

報告書タイトル



平成 30 年度提案公募委託事業において『平野屋新田の水路調査とその活用事業、水路調査とマップ・映像化・シンポジウム開催』としてサポーター会議の提案が採択された。シンポジウム開催の願いであった「＝その時 私たちの根幹をなす活動が始まる＝大東市の宝の一つである新田開発の歴史と現存する新田会所跡、新田水路、樋門の価値を市内外に広く知らせたい」との思いが膨らんだ。

取り組みにあたって「シンポチーム」を立ち上げることになる。

企画段階から、大東市の文化財保護・まちづくりに尽力されている専門家の方々にパネラーとして内諾を得ていたことは事業推進力につながった。

さらに、解体後の発掘調査にも関わり平野屋新田会館の生きざまを見届けてこられたともいえる教育委員会の黒田参事や、サポーター会議の代表者も加わってシンポジウムに取り組めたことは「新田開発・平野屋新田会館と歴史遺産の魅力」を再確認できたといえる。そこから、何を読み取りどう発信するのか皆で知恵を出し合えば、大東のまちづくりに大きく寄与できると思う。

平野屋新田会館の建物は残念ながら失っているけれど、特徴的な遺構を市が公有化した意義は大きいといえる。

シンポジウムの前段として、南新田・平野屋・谷川の 3 地区で地元の会館を借りて、3 人の先生方とともに講座・見学会を実施した。2019.1/26 シンポジウム当日はかなり冷え込む状況であったにもかかわらず、市内だけでなく他市からもあり、参加者は 100 名に近い状況となり活気があった。

今後、これらの成果をどう生かしていくかが課題となる。また今回の取り組みで、会館や水路・樋門など大東市の礎を築いてきたといえる新田についての資料の少なさが明らかになる。

この度、我々市民サポーター会議は、シンポジウム「新田遺産を活かすまちづくり」で基本的な考え方を示した。

- ① 新田開発の深野池の範囲や水路など詳細はまだまだ不明である。

② 会所建物はないが新田の風景・水路・樋門が残っている。

③ 「平野屋会所文書」が発行され、新田や会所、水路などに関する出来事が描かれている。

シンポジウムを取り組む中で、文化財審議委員(松本・岡村・市川)の先生方や黒田参事の発言は今後の方向性を示唆しているといえる。

それゆえに、シンポジウム当日のテープを 5 月の連休中に何度も聞き直してテープ起こしを進めることにした。それを基にして、それぞれの発言者に校正をしていただき、当日の発言に沿って報告書を作成することができた。時間はかかったけれど貴重な資料作成となる。

尚、当日配布資料と取り組むにあたっての経過・まとめ・雑感を添えている。参考にいただければ幸いです。

(文責：豊芦勝子)



H31 年 1 月 26 日 シンポジウム第 2 部パネラーによる討議の様子

Ⅱ 資料

《1》

かわら版 4 号 (2019 年 4 月発行縮刷版)

ひらのや 新田会所 かわら版

平野屋新田会所市民サポーター会議

平野屋新田会所
市民サポーター会議
広報部 発行
2019年4月
第四号
発行責任者
水永八十生

次の世代に 水の流れる風景を伝えたい

深野南新田北部の谷川地区にお住まいの五人の方々から谷川公民館においてお話を伺いました。
水路や農作業の様子や映った古い写真をわざわざアルバムから取り出してもらっていただき水路と昔の風景が残る場所を中心に一時間以上お話をいただきました。

水路も樋門も 子どもの遊び場

「以前にもお話いただきましたが、谷川地区の中央に鍋田川とつながる水路があり、そこに樋門があったのですが。」

◎ 地藏堂の辺りにありましたが、2ページの地図参照。舟が往き来出来るように鍋田川の土手を貫通する樋(伏越樋)があつて、鍋田川の内側と地藏堂の少し南側に樋門があつて水位調節をしていました。

「運河にある閘門のようなものですね。確かにそうですね。子どもの頃の樋門は」



谷川地区の皆さまにお話を伺う。H31年2月13日谷川公民館。
写真の左側は谷川の方々
右端はサポーター会議のメンバー。

深くても水もきれいだったし、小魚もたくさんいたのでよく水遊びをしていました。

「水路の堤から水面までの高さはどれくらいあったのですか。」
◎ 階段状の土手を少し降りていました。洗い物をする「ひなら」に行き来していました。

「ひなら」は沢山あったのですか。
◎ それぞれの家にあったように記憶しています。舟も農作業用に使っていましたしね。親の

代の話ですが、供出来を会所まで持つて行くときも舟で運んだと言っていました。

米を運んだ舟のみち

「谷川から会所まではどの水路を行っていたのですか。」

◎ 今は一部がなくなっていますが、阪奈道路沿いにあった水路から「かみなり樋門」をくぐり東に進んで「けん」と樋から鍋田川に入つて会所に向い、船着場から荷揚げをしていました。(2ページ地図参照) ルートはほかにもありましたが、ここをよく通つたようです。

舟で地藏堂の近くの伏樋を通つて鍋田川から寝屋川の方へも行っていました。

昔は水路と川の土濠えをしていましたので水の深さもあり、水面も今よりは平たんでしたね。

田んぼへの水入れ

「お持ち頂いた写真でも確かに田んぼより水路の方が少し低いようですね。」

◎ 自分たちの時代は、発動機のポンプで水を入れていたので、はつきりしたことは言えませんが普段は、田と水路の水面は同じくらいで、水路の水位を上げて田に水を入れていたと思います。土地の高さも随分変わりましたので今とは違いますね。(2頁右下へ続く)



谷川から東の風景
増水した田畑の様子。
(撮影日不詳)



踏み車を踏む様子
(撮影日不詳)

十月十三日
第一回講座・見学会
銭屋川上流部での見学



平野屋会所跡周辺の水路と樋門を探る講座と見学会

十一月十八日
第二回講座・見学会
平野屋公民館での講座



十二月九日
第三回講座・見学会
かみなり樋門での見学



平野屋新田会所跡・まちづくりシンポジウム《平野



1月26日大東市生涯学習センターアクロスでのシンポジウム。正面の裕先生、市史編集委員岡村喜史先生、滋賀県立大学市川秀之先生、教育



展示会「平野屋新田会所跡の周辺遺産」(1/26～31、アクロス3階ギャラリー)水路調査結果や水路、樋門などのパネルで新田遺産の様子を展示。

《シンポでの発言内容》

銭屋川ピオトリフくり 子どもにも水辺を

中垣内地区
大岸清

地域の六十から七十代の人たちの子ども頃の思い出の川にしたい。子どもは遊び場を求めて田んぼの畦を踏み壊しておやじに怒鳴られるのは毎度のこと。学校から帰ると銭屋川に釣りに走ったという「ドロサク」頃の銭屋川に戻りたい。当時は周囲が田んぼで農家

の方々がそれなりに川を管理していたから環境が維持されていたんでしょ。今、全く変わってしまった。銭屋川は廃水だけの川になってしまった。目的を失った川は即死の川になってしまっています。地域の捨てられたゴミの集積場になってしまっています。

銭屋川は新田が開発されたときに同時に造られたらしい。今もそれなりに原風景が残っています。その歴史の話を元の姿に戻したい。子どもの遊び場(下流部)



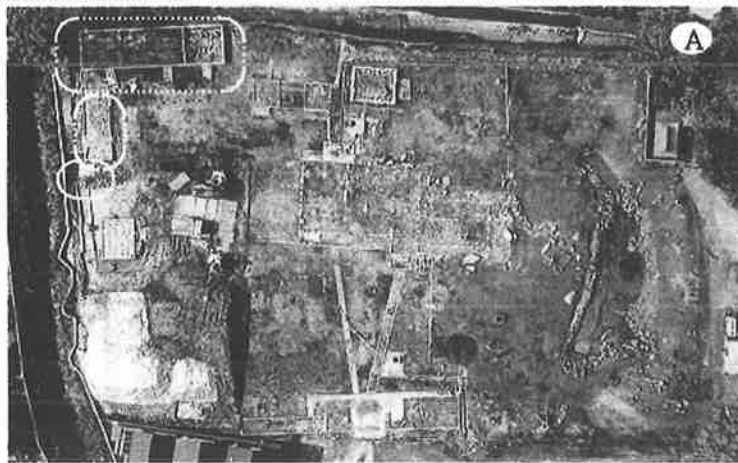
(銭屋川 上流部)

開発が進む現在においても此の谷川地区に田んぼがあったお陰で新堀川の水路が残っている。その水路に一八五〇年頃に造られた石造樋門が残っています。近年下水道が完備され、更に心ある人たちによって、歴史遺産を見直し綺麗に川を残す活動がされていることも大きく寄与していると思われまふ。

この新堀川には、コイ・フナ・クチボソ・メダカ・エビ・アメン。開発が進む現在においても此の谷川地区に田んぼがあったお陰で新堀川の水路が残っている。その水路に一八五〇年頃に造られた石造樋門が残っています。近年下水道が完備され、更に心ある人たちによって、歴史遺産を見直し綺麗に川を残す活動がされていることも大きく寄与していると思われまふ。



(新堀川と浄化実験)



2008年の屋敷地解体直後に撮られた会所跡の航空写真（教育委員会提供）。この時の敷地は、坐摩神社を含めて東西約120m、南北約60m。白点線内が指定された千石蔵跡と道具蔵跡、船着場跡（地中保存）。



写真上：千石蔵跡・道具蔵跡の現況 写真下：船着場跡

**市文化財指定
記念行事**
8月10日(土)大東市立
市民会館（キラリエホール）
指定に関する講演会等の
催しが計画されています。
詳しくは、大東市の広報
「だいとう」8月号で。

平成三十年度大東市提案公募型委
託事業としてサポーター会議が作成
した「散策マップ」は市内の公共施
設を中心に置かれていて、ご好評い
ただいています。
また、新田の水路や樋門、水利な
どを紹介している「DVD」（約九
分半）も希望者に配布しています。事
務局がサポーター会議の行事の場で

平野屋新田会所跡周辺の
新田遺産
紹介「散策マップ」配布中
お申し出下さい。



「散策マップ」の表紙(A4横8ページ)とDVD

**平野屋新田会所跡が
市の文化財に指定される**
大東市が所有していた会所
跡に残る千石蔵跡と道具蔵跡、
船着場跡が、市の文化財に指
定されました。

建物解体直後に撮られた屋
敷地全体の航空写真(A)の
左上の部分(白い枠内)に指
定された蔵跡(B)と船着場
跡(C)があります。
今後指定を機に、文化財と
しての有効な活用とそれをよ
り確かなものにする会所跡地
の整備が課題となります。

大東市立歴史民俗資料館
で「集印地図」をもらい、
四会所を巡ろう



- 鴻池新田会所：東大阪市鴻池
元町(JR鴻池新田駅徒歩5分)
- 安中新田会所(旧植田家住宅)
八尾市植松町(JR八尾駅徒歩
5分)
- 加賀屋新田会所：住之江区南
加賀屋(四つ橋線住之江公園駅
徒歩15分)

平野屋新田会所
市民サポーター会議
二〇一九年四月発行
事務局
大東市教育委員会
生涯学習課
大東市曙町四番六号
TEL 〇七二・八七〇・九二五

一緒に活動しませんか

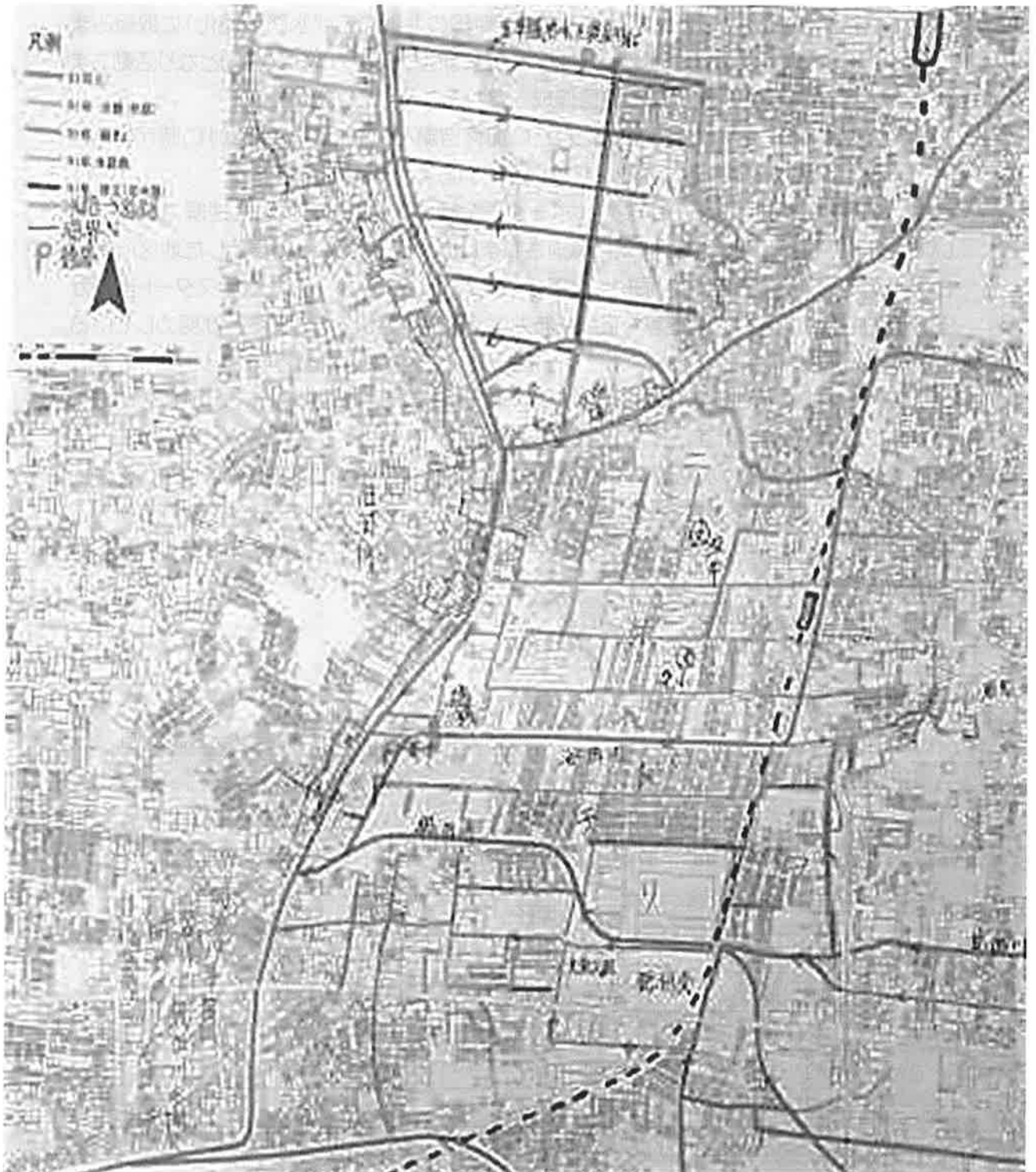
- 毎月回定期会議
第2土曜日10時～12時
- 市民会館5階 教育委員会会議室
- 年会費 1000円
- お問い合わせ 事務局
大東市教育委員会 生涯学習課

●「かわら版四号」は、谷川
地区の聞き取りと「大東市提
案公募型委託事業」のシボ
ジウムや講座・現地見学の
報告となりました。また、事
業でご協力を頂いた谷川と中
堀内地区のお二人にお願いし
シボジウムでの発言内容を
まとめて掲載頂きました。
●なお、今回から編集責任者
が代わりました。前任の中西
昭治さんには目を光らせても
らいます。(すみません)

編集後記

《 2 》

深野池北部（深野新田・深野北新田）水路地図



大阪産業大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科松本裕先生研究室のルフェーブル・エリック・ボリス・ラファエルさんの作成した地図を基にしてサポーター会議が加筆着色したものです。

おわりに

令和元年度は、市史跡指定に呼応して、平野屋新田会所跡と周辺新田遺産の広報活動（展示会・見学会）と水路調査（深野池にできた新田の北部に広げ水路地図化）に取り組ましました。ところが、年度末の令和2年をむかえると、新型コロナウイルス騒動となり活動もままならなくなっていました。報告書作成も遅れることとなりました

これからは、市の史跡に指定されたことに加え自粛と「新しい生活様式」の時代のもとサポーター会議にも工夫ある活動が求められているようです。

さて、平野屋新田会所跡の保存やサポーター会議の活動にも多大なご理解ご協力を頂いてきた平野屋野口区長様が年末に急逝されました。11月の展示会で展示した地区所有の古い水路地図使用の御礼にお伺いした直後のことでした。サポーター会議スタート当初から展示資料作りや学習会開催等々に快くお力添え頂いてきました。『皆さんが努力していることは認めますが、会所跡をいつまでほったらかしにしとくんや』と、顔を真っ赤にして言われた姿が今も心に残ります。今は、市の史跡指定の報告だけでも出来たことがせめてもの恩返しになったと思います。心からご冥福をお祈りいたします。

最後になりましたが、水路調査やインタビューなどに快く応じて頂き、励ましの声をかけていただきました地元の皆様に篤く御礼申し上げます。また、サポーター会議の活動をご指導頂きました諸先生方と大東市立歴史民俗資料館、事務局の皆さまに心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。

令和2年 3 月

平野屋新田会所市民サポーター会議一同

令和元年度 平野屋新田会所市民サポーター会議名簿

今井 享	高見 庸子	福本 勉
河村 共之	地引 道子	藤井 俊悟
木岡 陽子	豊芦 勝子	水永八十生
小林 希子	中西 昭治	宮本 喬
下村 幸子	中村 義之	矢谷 敬子
世良 悦子	林田 恵子	

平野屋新田会所市民サポーター会議活動報告書

・令和2年3月31日発行

・発行 平野屋新田会所市民サポーター会議 
事務局 大東市教育委員会生涯学習課
〒 574-0076 大東市曙町4番6号
☎ 072-870-9105